

ビクトリア大学図書館の紹介

尾田 智彦 (経営学部教授)

私は2007年4月より2008年3月まで、カナダ・ビクトリア大学にて訪問研究員(Visiting Researcher)として在外研究を行っています。ここでは同大学と、図書館の様子を紹介していきます。

ビクトリアは、2010年に冬のオリンピックが開催されるバンクーバーの南方、大陸からは海峡を挟んだバンクーバー島の南端に位置する港町です。ビクトリア都市圏の人口およそ33万人、カナダでは最も南部にあり、温暖な気候と、英国風の落ち着いた街並みで知られ、ブリティッシュ・コロンビア州の州都でもあります。大学は、市の中心部から北東方向へ車で約20分の郊外に広大なキャンパスを展開しています。

ビクトリア大学は、1903年に設立されたVictoria Collegeを前身とし、1963年にUniversity of Victoriaとして現在地にて独立した総合大学となりました。現在は、10の学部と2つの独立部門をもち、約2万人の学生(大学院生を含む)と4千人の教職員がいます。マクリーンズ誌(Maclean's Magazine)の2007年の大学ランキングによれば、ビクトリア大学は総合大学(Comprehensive University)の1位(前年度は3位)にランクされています。

キャンパスは、直径600メートルのRing Roadという真円の道路によって区切られ、その内部に学術施設の建物を配し、その外部にスポーツ施設や福利厚生施設(寮など)を配するように設計されています。メインの図書館(McPherson Library)は、大学のバスターミナルからRing Roadを挟んだ諸施設群のちょうど中心部、学術施設のエリアにあります。学内の人の動きを考慮すれば、最もアクセスの良い場所に

位置していると言えます。図書館の建物は、地上4階地下1階で、3階の総面積の約半分は床が2層構造になっており、蔵書収容能力を確保しています。本図書館の特徴としては、「学習の場」という色彩が非常に濃いと思います。

1階に入ると、高い天井の広い空間に、メインの貸し出し窓口やレファレンスサービスの窓口、そして多数のコンピュータ端末や、学習用の机やソファが配置されています。1階の学習環境は、個人での学習よりもむしろ複数での共同学習を意図したもので、(騒ぐことは論外ですが)話し合いながら学習を進めることに問題はありません。また同じ空間にはArt Galleryがあり、美術の展示会が開催され、地元の人も訪れます。1階に流れる空気は、概してゆったりとしたものです。

それに対し、2階・3階には、やや緊張感のある空気が流れます。階段とこれらのフロアの間には、透明の防音壁が設置され、1階とは空間的に完全に遮断されます。ドアには「ここから先“Silent Study Area”である」旨が記されています。学習机は個人別にパーティションで仕切られ、話し声は聞かれません。4階は、管理用の事務所で占められています。書架は、1階と4階を除く各階に配置されています。

現在、図書館の拡張工事として、図書館に接する形で、新しい建物(William C. Mearns Centre for Learning)が建設されています。これはその名の通り、研究・学習のリソースとしての図書館機能の増強は勿論、E-learningや学習スキル、ライティングスキル等の学習サポート機能の強化を目指したものです。発展を続ける同大学で、図書館は学習の場の中心として、ますます重要な役割を果たして行きます。



ビクトリア大学図書館